



人食いバクテリア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

令和4年5月6日
富山県感染症情報センター
(富山県衛生研究所内)
(0766-56-5431 直通)

感染症発生動向速報

(令和4年第17週分・4月25日～5月1日)

《インフォメーション》

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(Streptococcal toxic shock syndrome; STSS、以下「STSS」とする)は、溶血性レンサ球菌による感染症です。本疾患では通常無菌的な組織(血液、筋肉など)にレンサ球菌が侵入し、急激に症状が進行して重篤な疾患となるため、メディアからは「人食いバクテリア」といった取り上げ方をされることがあります。

本疾患は感染症法において五類全数把握疾患に位置付けられています。届出には、臨床症状(ショック症状に加えて肝不全、腎不全等の指定の症状のうち2つ以上)、病原体の検出が必要です。

全国の患者報告数は平成23年より報告数が増加傾向でしたが、令和元年の894例をピークにやや減少傾向になっています。令和3年は646例、令和4年はこれまでに230例が報告されています(図1)。図2は富山県における原因菌の血清群別のSTSS患者報告数を示しています。近年では毎年10～20例が報告され、今年は既に9例が報告されています。患者は30歳以上の成人に多く、60歳以上が70%以上を占めています。県内では、平成20年以降は原因菌としてA群溶血性レンサ球菌が最も多く分離されており、次いでG群が多くなっています。

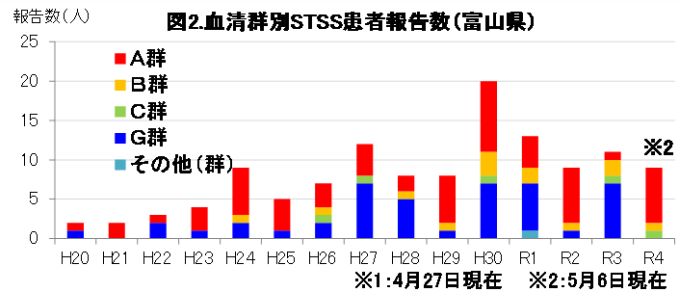
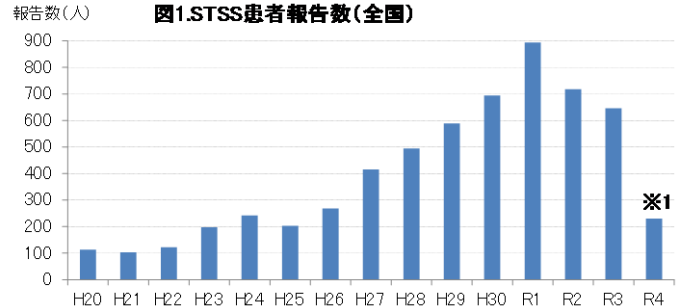
初期症状としては、発熱や悪寒などの症状、四肢の疼痛や腫脹、創部の発赤などが見られます。発病から病状の進行が急激で、四肢の軟部組織壊死を伴い、多臓器不全からショック状態で死に至ることもあります。原因菌の侵入門戸判明例は約半数で、その部位は皮膚が最多です。STSS患者の約30～50%が死亡しており、極めて致死率の高い感染症です。早期診断・早期治療が治癒率を高めます。四肢の創傷部位は清潔に保つことが大切です。創部の発赤や腫脹、痛みの所見が見られた場合には、直ちに医療機関を受診してください。

《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 775件(暫定値)
- 二類感染症 結核 1件(60歳代、女性)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件(80歳代、女性、肺炎型)
- 五類感染症 梅毒 1件(30歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期)
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件(10歳未満、男性)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	7.66(↓)	8.24
2位	水痘	0.48(↑)	0.03
3位	突発性発しん	0.38(↓)	0.45
4位	RSウイルス感染症	0.34(↑)	0.31
5位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28(↓)	0.52
6位	細菌性髄膜炎	0.20(↑)	0.00



○感染症発生動向調査報告状況（令和4年第17週 令和4年4月25日～令和4年5月1日）

分類	疾患	今週報告分（第17週）							累積報告数（令和4年第1週（1月3日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市 ^{※1}	その他 ^{※2}	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市 ^{※1}	その他 ^{※2}	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	47	75	192	100	349 ^{※1}	12	775	2,392	2,228	6,144	2,333	14,166 ^{※1}	127	27,390
二類感染症	結核			1				1	1	2	13	6	14		36
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症									1			1		2
四類感染症	つつが虫病									1					1
	レジオネラ症	1						1	3		3	1	6		13
五類感染症	アメーバ赤痢										1		1		2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症											1	2		3
	急性脳炎										2				2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症								2		3		4		9
	侵襲性インフルエンザ菌感染症												1		1
	侵襲性肺炎球菌感染症										1		2		3
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒	1						1	2		4	2	13		21
	播種性クリプトコックス症												2		2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1		1					1		1
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										1				1
	RSウイルス感染症			6		4		10	28	18	222	56	279		603
				0.75		0.40		0.34							
	咽頭結膜熱			2				2	21	14	108	7	35		185
				0.25				0.07							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3		5		8	20	9	69	21	134		253
				0.38		0.50		0.28							
	感染性胃腸炎	3	25	59	25	110		222	320	395	943	349	1,111		3,118
		0.75	8.33	7.38	6.25	11.00		7.66							
	水痘			12		2		14		5	19	1	16		41
				1.50		0.20		0.48							
	手足口病			2				2	1	8	46	3	47		105
				0.25				0.07							
	伝染性紅斑			1				1	1		4	1	1		7
				0.13				0.03							
突発性発しん			6	1	4		11	10	9	50	13	35		117	
			0.75	0.25	0.40		0.38								
ヘルパンギーナ								37	7	21	1	6		72	
流行性耳下腺炎								1		2	1			4	
流行性角結膜炎								6	2	1				9	
細菌性髄膜炎					1		1				1	1		2	
				1.00			0.20								
マイコプラズマ肺炎											1			1	
インフルエンザによる入院患者（※3）											3	1		4	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 県報道資料の判明日調査中は、公表前日を判明日とした暫定値です。 ※2 その他は県外、居住地非公表分です。

※3 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週(9月6日)～の集計です。